

令和6年度事業計画書

(2024年1月1日～2024年12月31日)

I. 事業計画概要

国際間の交流は、昨年にも増して、より活発化すると思われま

す。原点に立ち返り、公益財団法人美術工芸振興佐藤基金の目的である「美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進、さらには我が国文化の発展に寄与する」ことに努めてまいります。

石洞美術館においては、美術工芸の魅力の更なる発信を行うとともに、地域の方々と連携して文化の発展に寄与する事業を行ってまいります。

また、美術工芸の創作、研究に対する助成事業及び表彰事業も行なって参ります。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

「古染付展 PartⅢ」 1月16日火曜日～3月31日金曜日

古染付は Part I、Part II と開催してきましたが、前回展示できなかったものや評判の良かったものなど、石洞美術館が所蔵する作品を展示して、古染付展の最終回と致します。

「第52回伝統工芸日本金工展」 5月18日土曜日～6月29日土曜日

「伝統工芸日本金工展」は公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会です。

出品作品は鑑審査を実施し、文部科学大臣賞、東京都教育委員会賞、朝日新聞社賞など共に、石洞美術館賞も授与致します。

昨年の第51回伝統工芸日本金工展では、公益社団法人日本工芸会の名誉総裁であられる佳子内親王様が、ご来館されました。

「昭和に活躍した現代陶芸家」 9月1日日曜日～11月30日土曜日

石洞美術館が所蔵する、昭和の時代に活躍した陶芸家の作品の中から濱田正司と北大路魯山人と十四代坂倉新兵衛の作品を展示します。

鑑賞陶器とは、また違う美しさの中に機能性を備えた「用の美」を追求した作家の陶磁器を鑑賞して頂きます。

b. 地域との連携活動

石洞美術館での金工展開催中に講師を招き、展示作品の解説を行います。
また、足立区内の小、中学生には招待券を配布いたします。

公益財団法人足立区生涯学習振興公社では、石洞美術館でのコンサートインミュージアムも検討中です。

c. 広報活動

美術館・博物館共通割引入場券「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

「ぐるっとパス」に参加の都内近郊の美術館・博物館は 101 カ所あります。

d. 資料の収集

魅力ある展示を行って行く為、資料収集方針にしたがって、資料収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

令和6年度助成金応募件数は6件あり、令和5年10月24日に助成選考委員会を開催し、厳選なる選考の結果、令和6年度は下記2件の調査研究に対して助成を行う事となりました。

a. 松本卓己 「英国に現存する中国漆器の調査」 助成金額 61万円

b. 曾和英子 「中国ヤオ族の織物の染織技術と文化の現代的継承」
助成金額 80万円

(2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金属芸術作家奨励賞）

若手金属芸術作家奨励のための淡水翁賞は、本年度で40回目を迎えます。
第40回淡水翁賞の募集は9月頃に開始し、12月20日をもって締め切りとし選考の上、3月に授賞式を行う予定です。